

第26回
北九州大腿骨近位部骨折
地域連携パス協議会

2019年9月28日

北九州大腿骨近位部骨折地域連携パス協議会事務局
産業医科大学病院 リハビリテーション部
村上 武史

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 大腿骨近位部骨折患者の認知機能重症度による影響
3. その他

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 大腿骨近位部骨折患者の認知機能重症度による影響
3. その他

大腿骨近位部骨折地域連携パス 集計結果

全受理データ

(2011年8月～2019年8月31日)

地域連携パスの利用状況

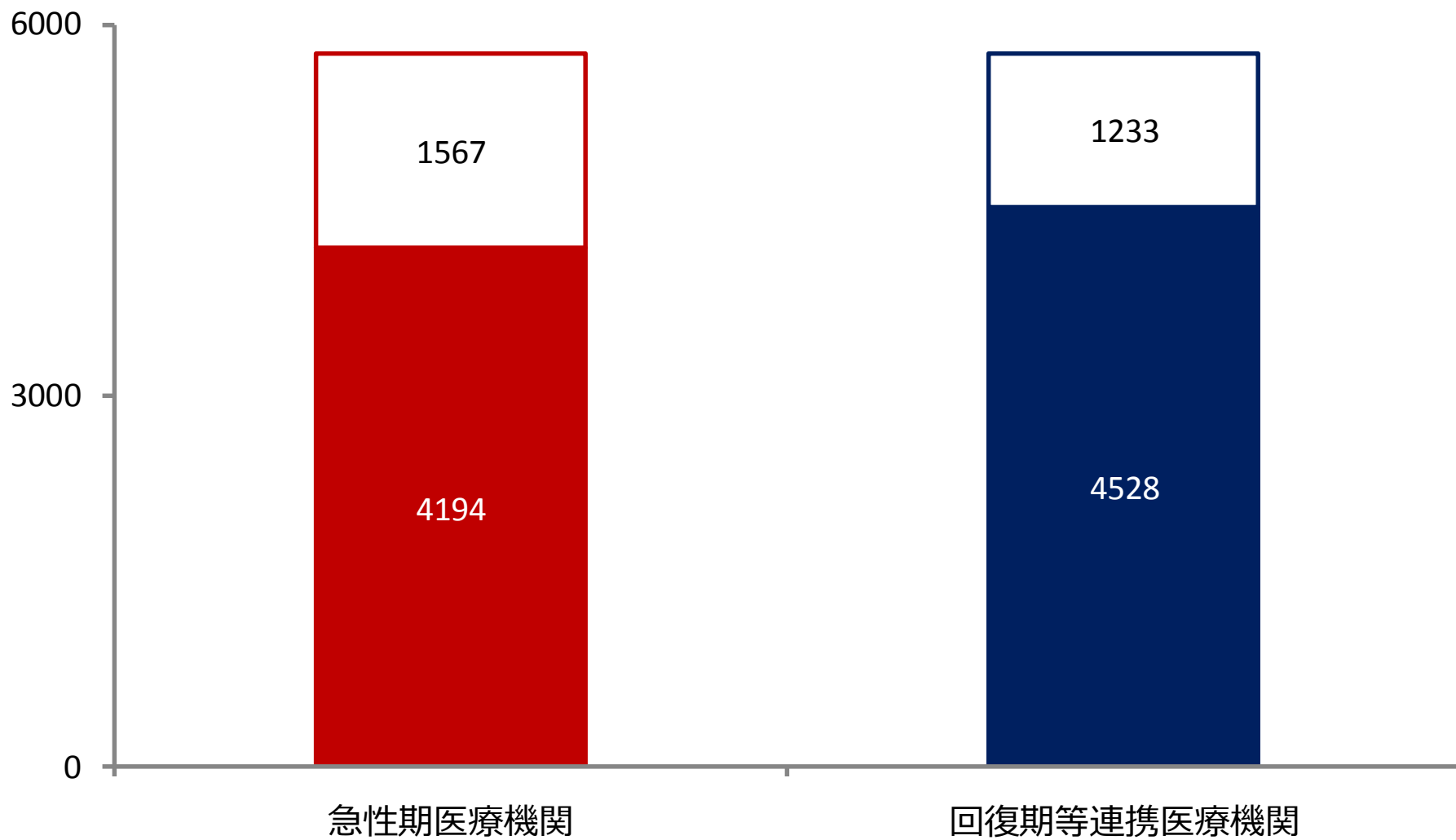
2019.5.31～2019.8.31までの3カ月間

- 急性期医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**90件**
 - 合計5761件(受理4194件＋未送信1567件)
- 回復期等連携医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**149件**
 - 合計5761件(受理4528件＋未送信1233件)
- 急性期医療機関と回復期等連携医療機関の両施設の利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**74件**
 - 合計**2962件**

利用件数

運営開始時～2019.8.31

合計 5761 件

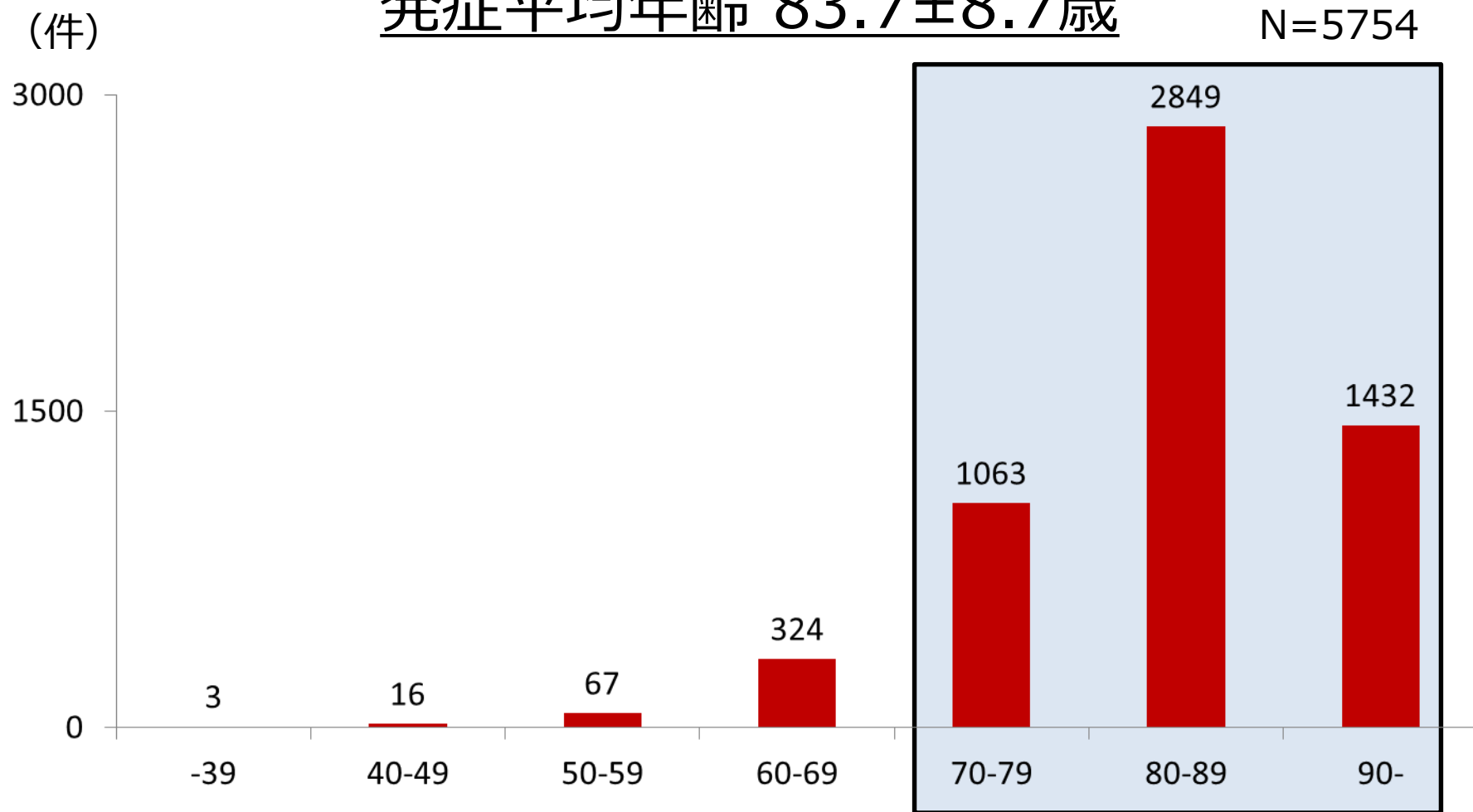


両施設からの受理件数 : 2962件

年代別利用状況

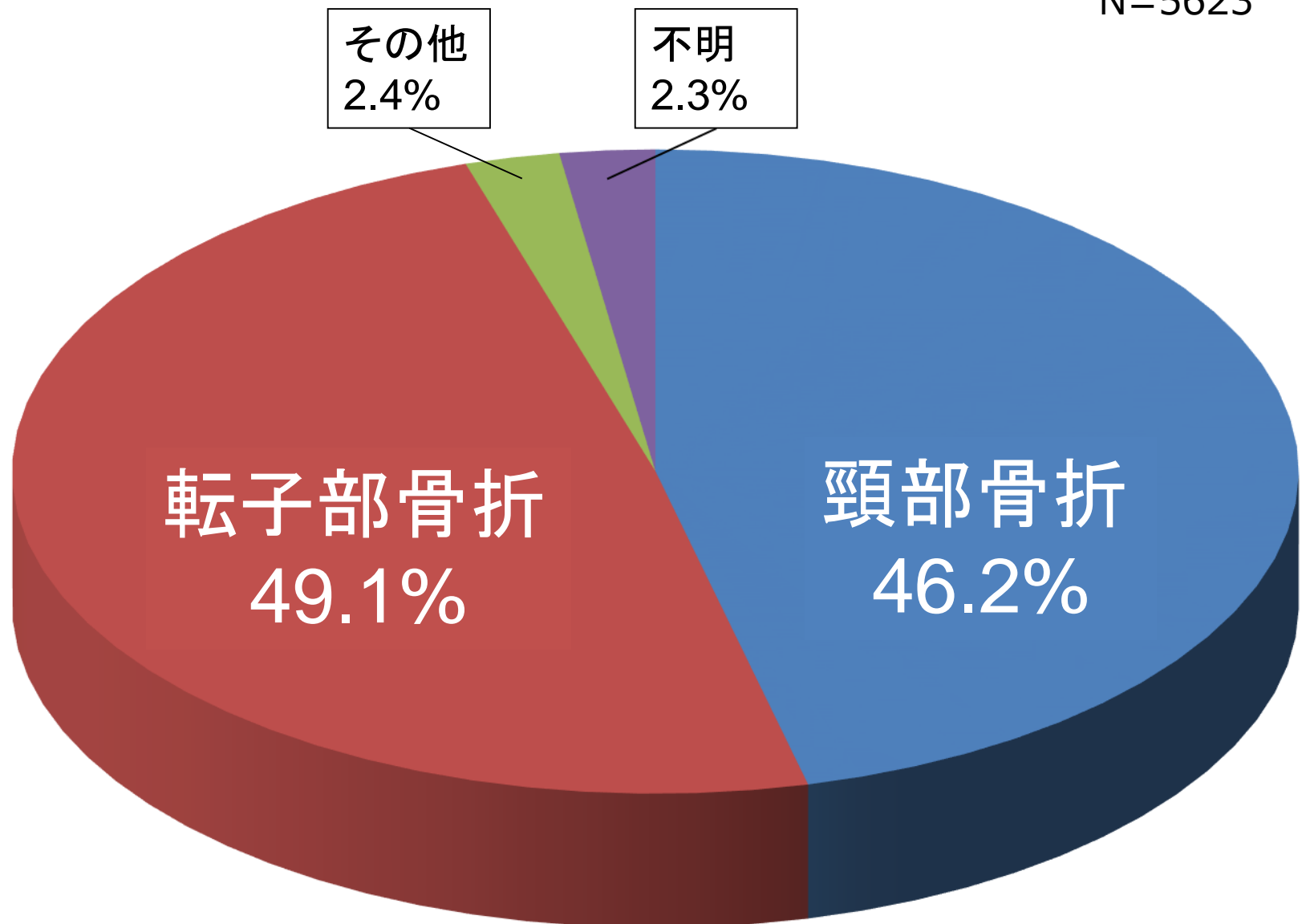
発症平均年齢 83.7±8.7歳

N=5754

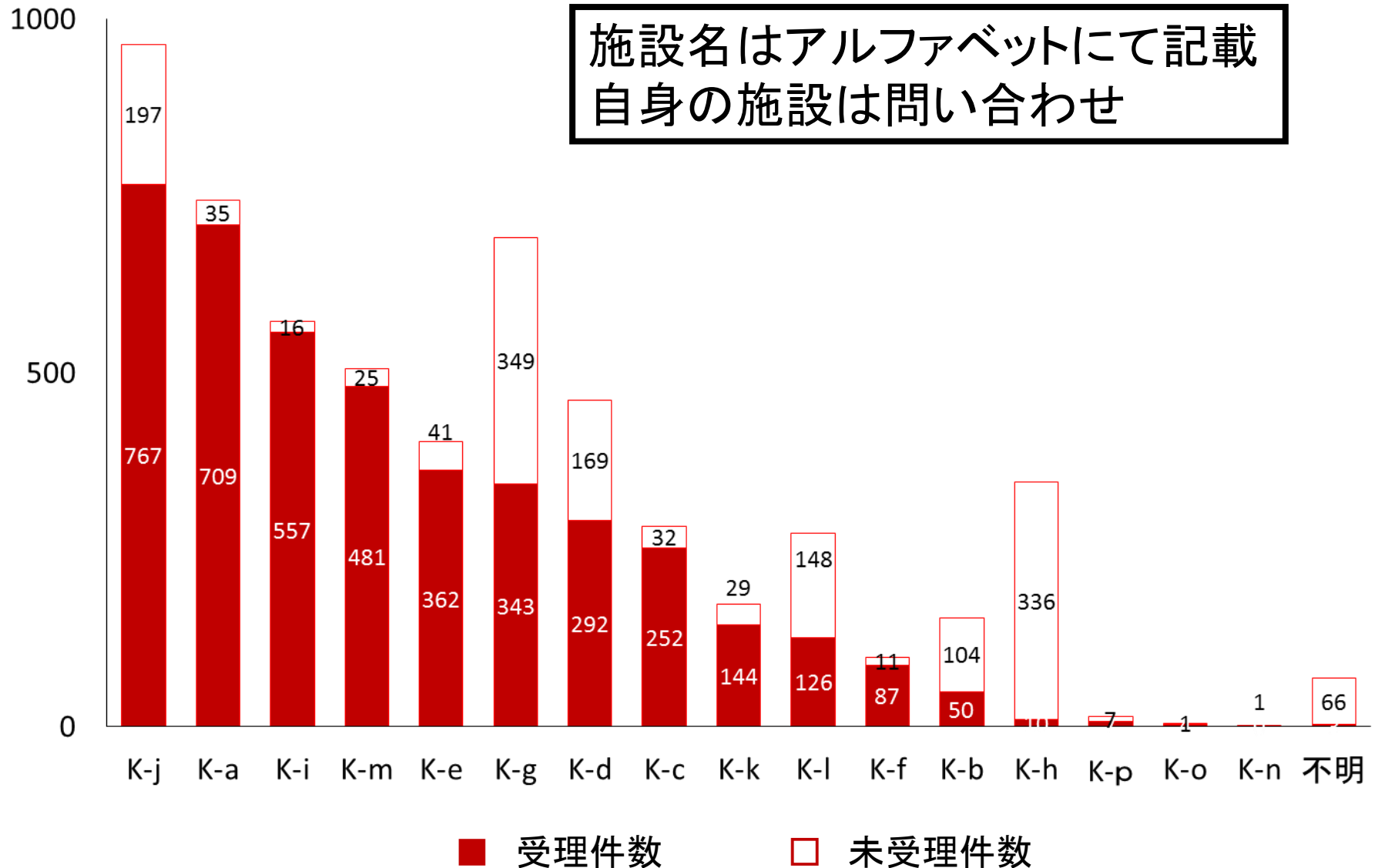


骨折型別発症割合

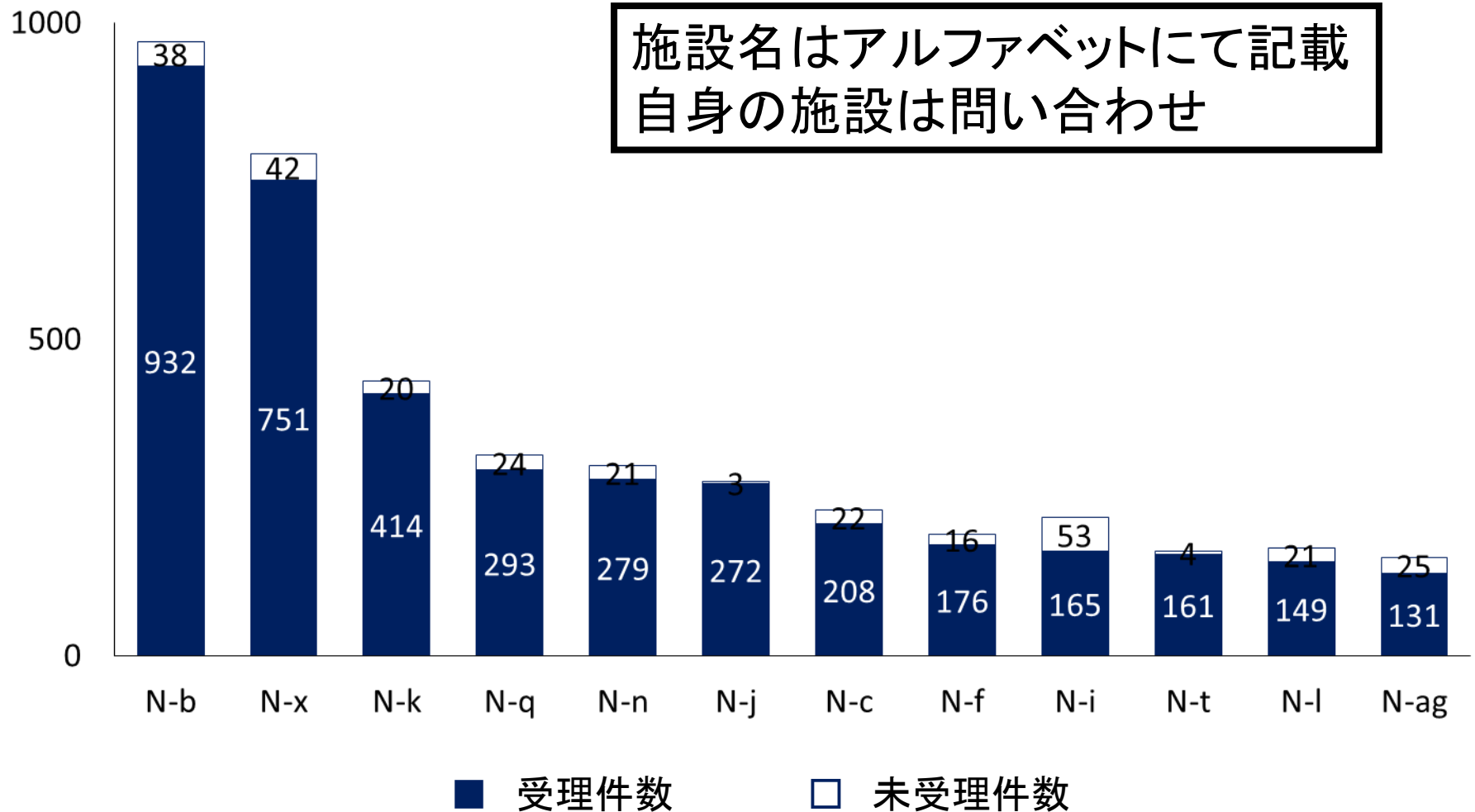
N=5623



急性期医療機関



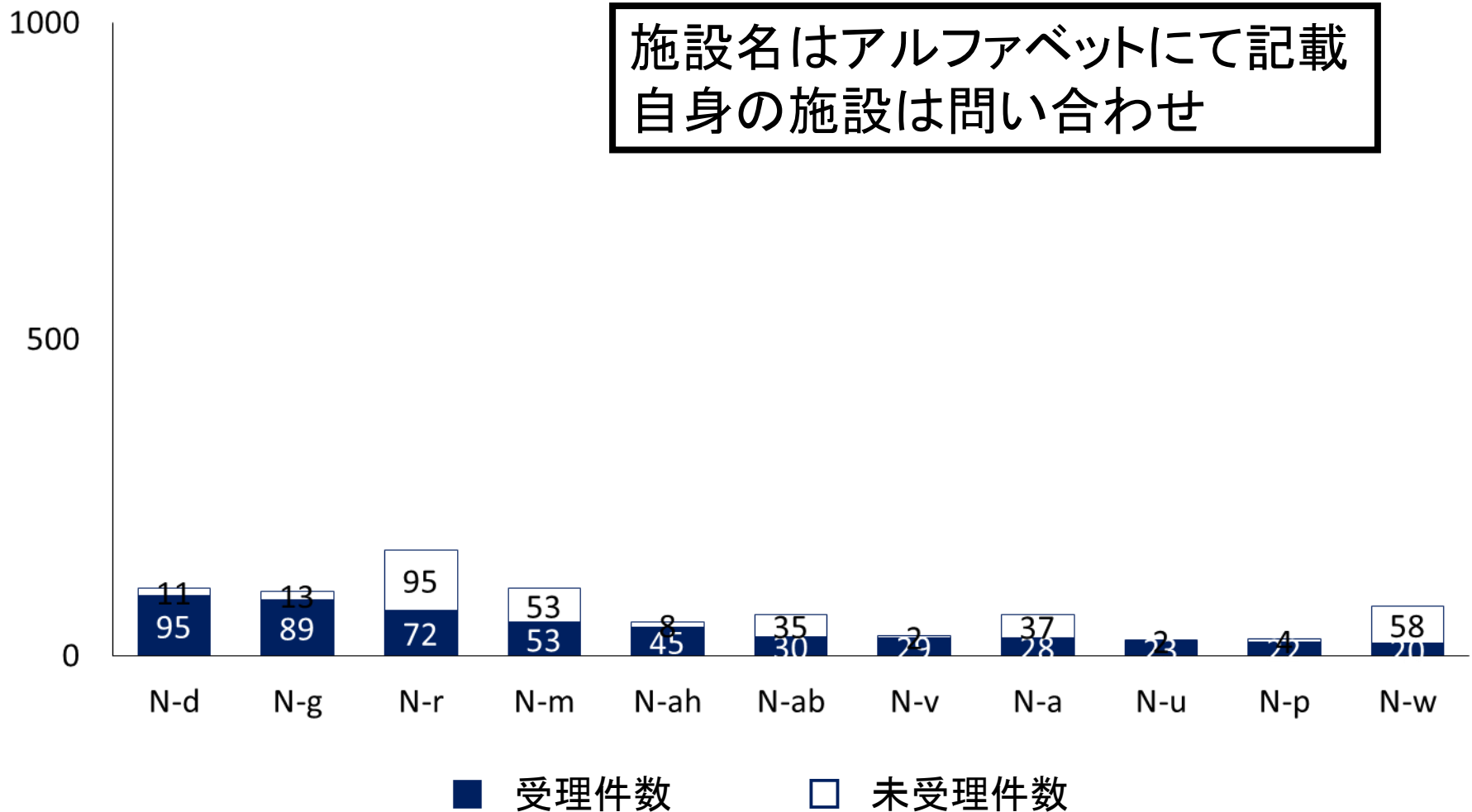
回復期等連携医療機関①



* 現在入院中の可能性があるため、受理事件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

回復期等連携医療機関②



* 現在入院中の可能性があるため、受案件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
- 2. 大腿骨近位部骨折患者の認知機能重症度による影響**
3. その他

はじめに

認知機能障害に対するリハビリの有効性は、
高齢患者、PD患者において報告されている

Poynter L et al: Int J Clin Pract: 2013

Davide F et al: Front Aging Neurosci: 2016

しかし、

大腿骨近位部骨折患者では有効性は一定の
見解が無く、認知機能低下の重症度による転
機についても報告は少ない

目的

大腿骨近位部骨折患者の認知機能低下の重症度により、急性期医療機関、回復期等連携医療機関での転帰等が異なるかを検討した

方法

対象

大地骨地域連携パスを利用した5761名

【除外】

- ・急性期、回復期施設からパスが未送信のもの
- ・急性期医療機関で認知機能の評価が欠損しているもの

解析対象 2036名

方法

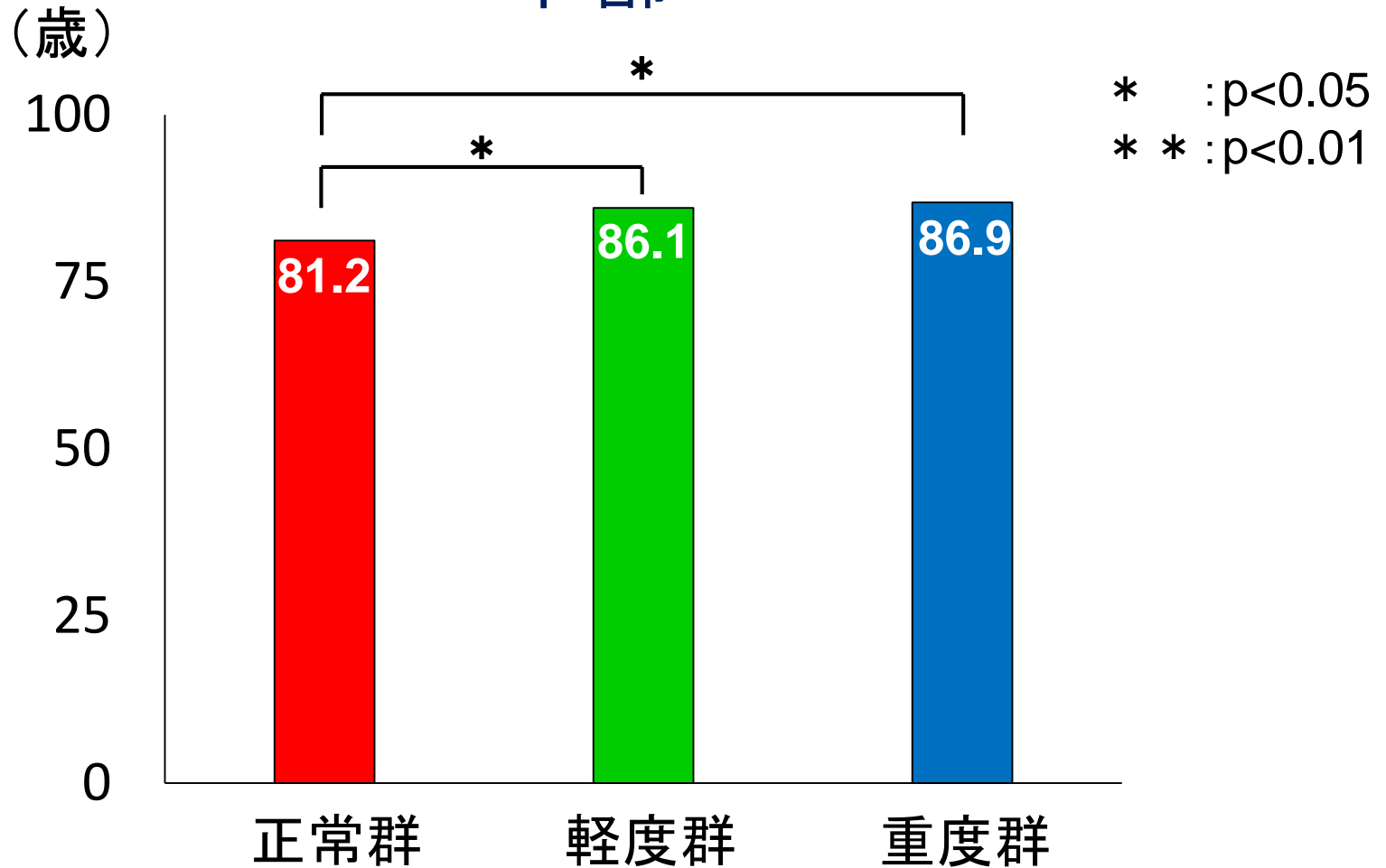
長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)を用い、
認知機能低下の重症度をグループ分けした

	HDS-R	人数
正常群	30～21点	1073名
軽度認知機能低下群	20～11点	571名
重度認知機能低下群	10～0点	392名

各病期における項目を比較検討した

結果

-年齢-



認知機能低下者が高齡

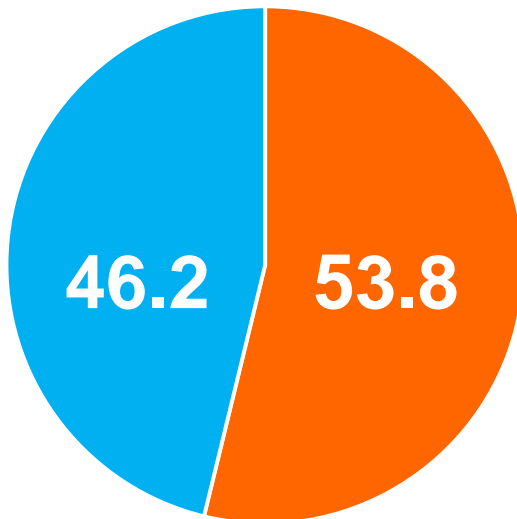
一元配置分散分析
事後検定 (Bonferroni法)

結果

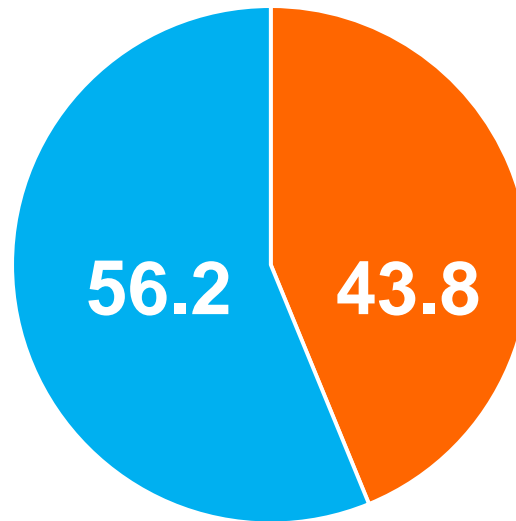
-骨折型-

■ : 大腿骨頸部骨折
■ : 大腿骨転子部骨折

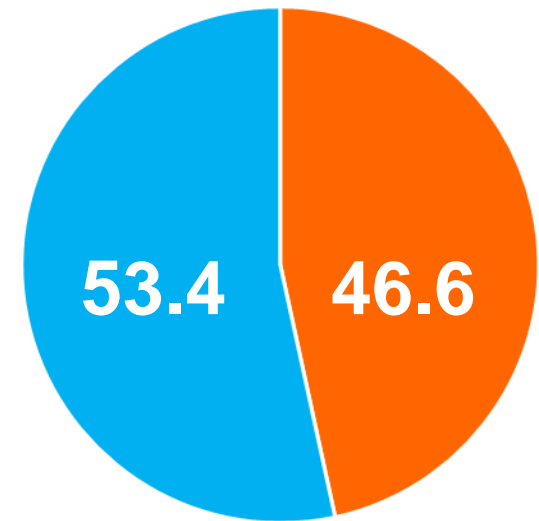
正常群



軽度群



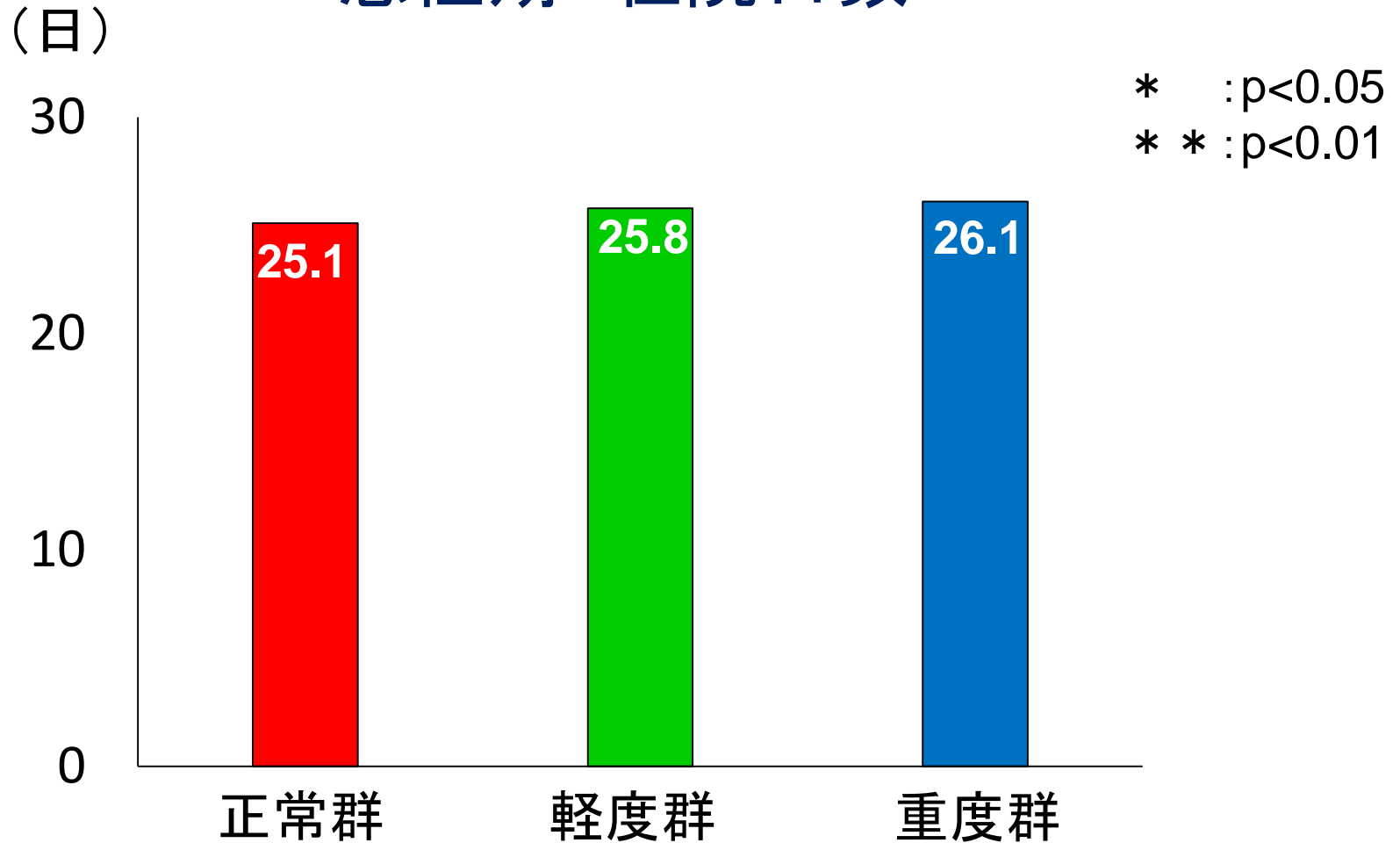
重度群



認知機能低下者に転子部骨折が多い

結果

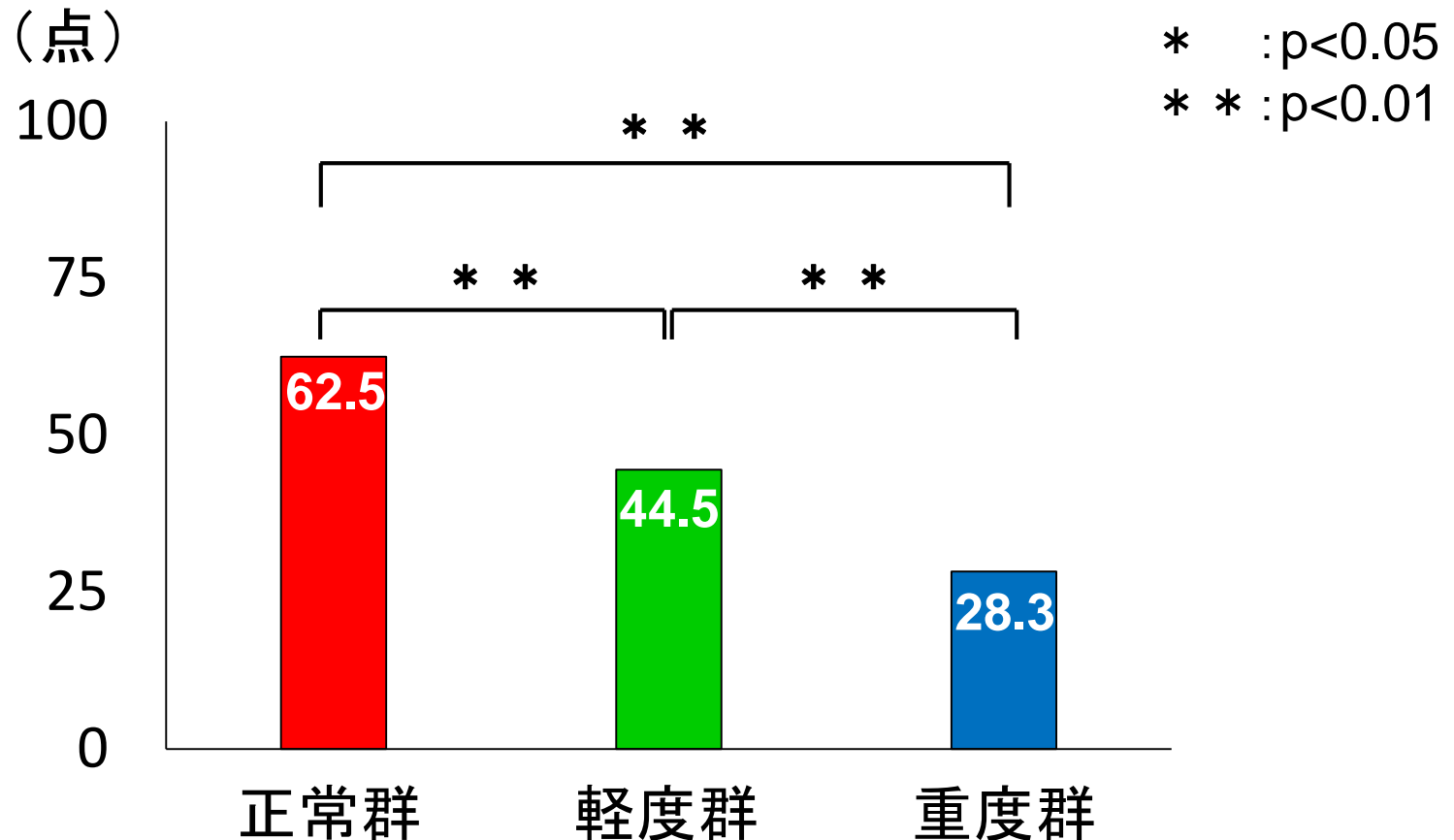
-急性期 在院日数-



一元配置分散分析
事後検定 (Bonferroni法)

結果

-急性期退院時 Barthel Index-



認知機能低下に伴いBIも低値

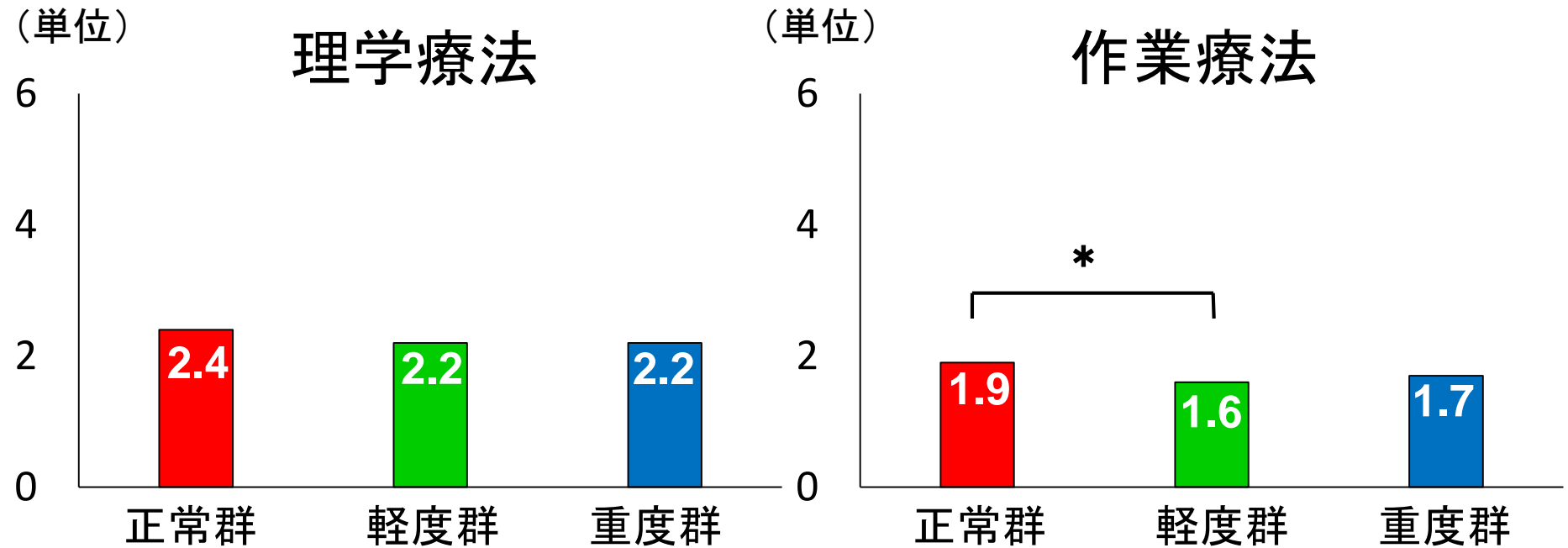
一元配置分散分析
事後検定(Bonferroni法)

結果

-急性期 リハビリ実施平均単位数-

* : $p < 0.05$

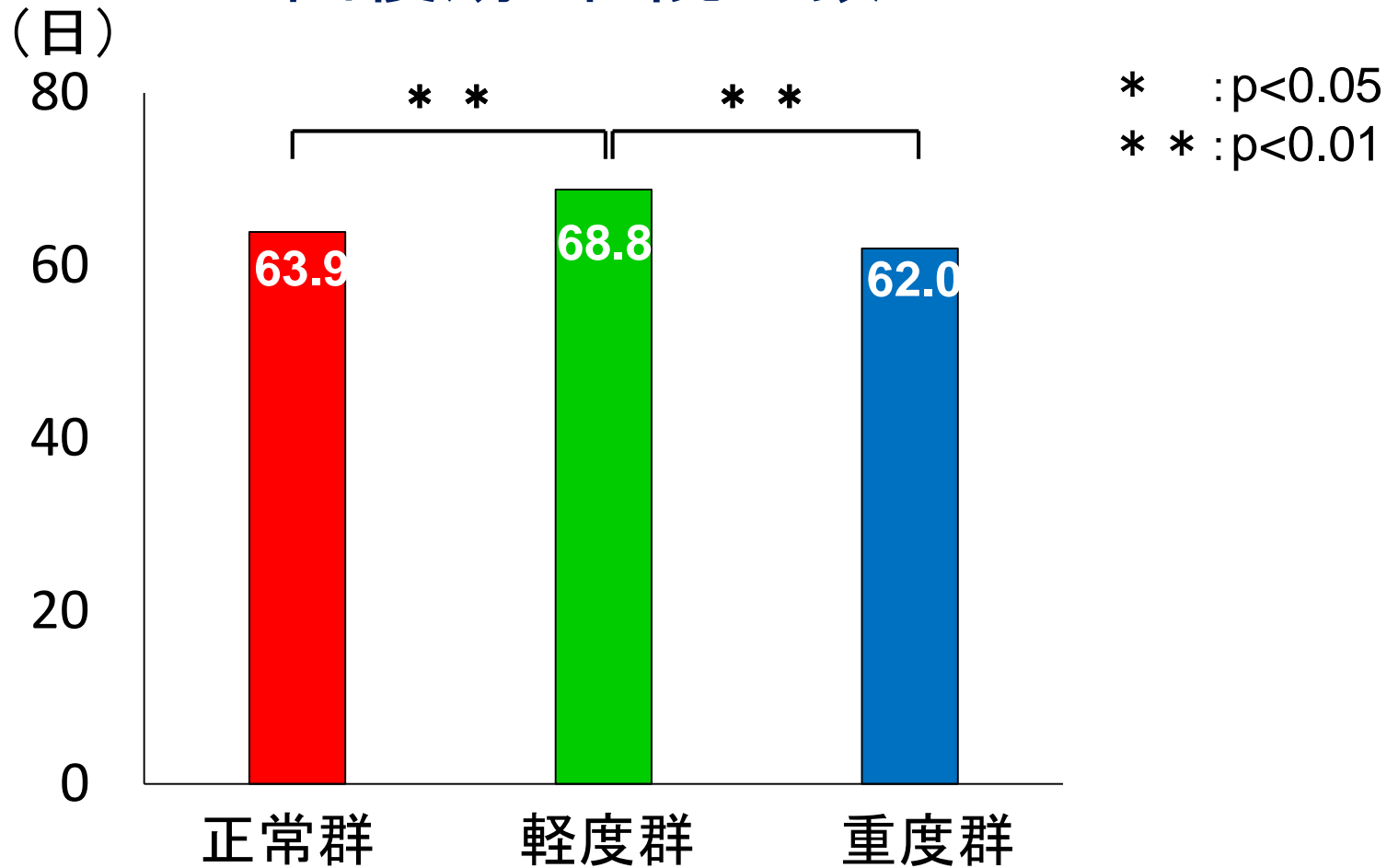
** : $p < 0.01$



一元配置分散分析
事後検定 (Bonferroni法)

結果

-回復期 在院日数-

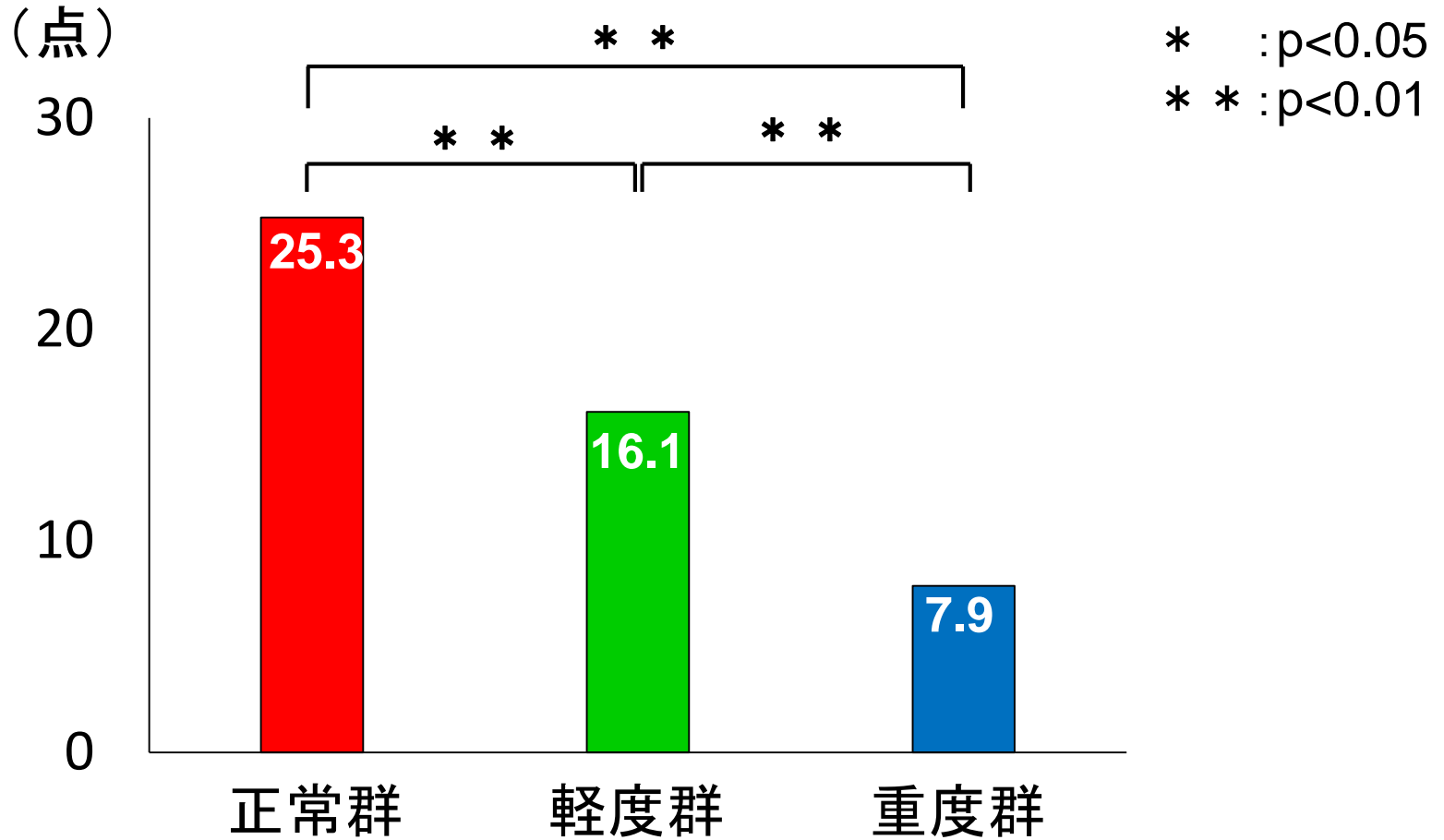


認知機能重度でも正常群と同等

一元配置分散分析
事後検定 (Bonferroni法)

結果

-回復期退院時 HDS-R-

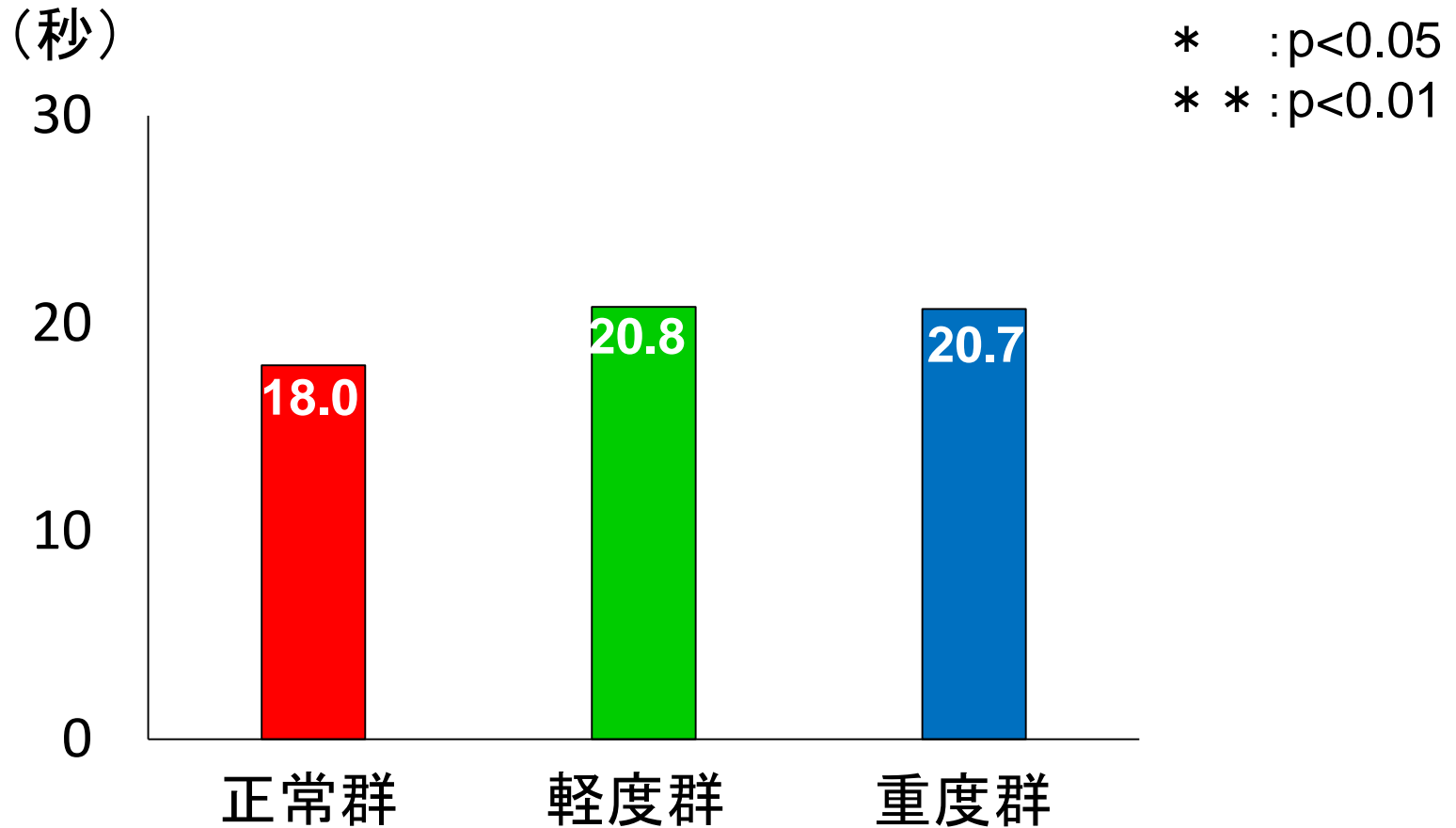


認知機能は回復期で変化なし

一元配置分散分析
事後検定 (Bonferroni法) 23

結果

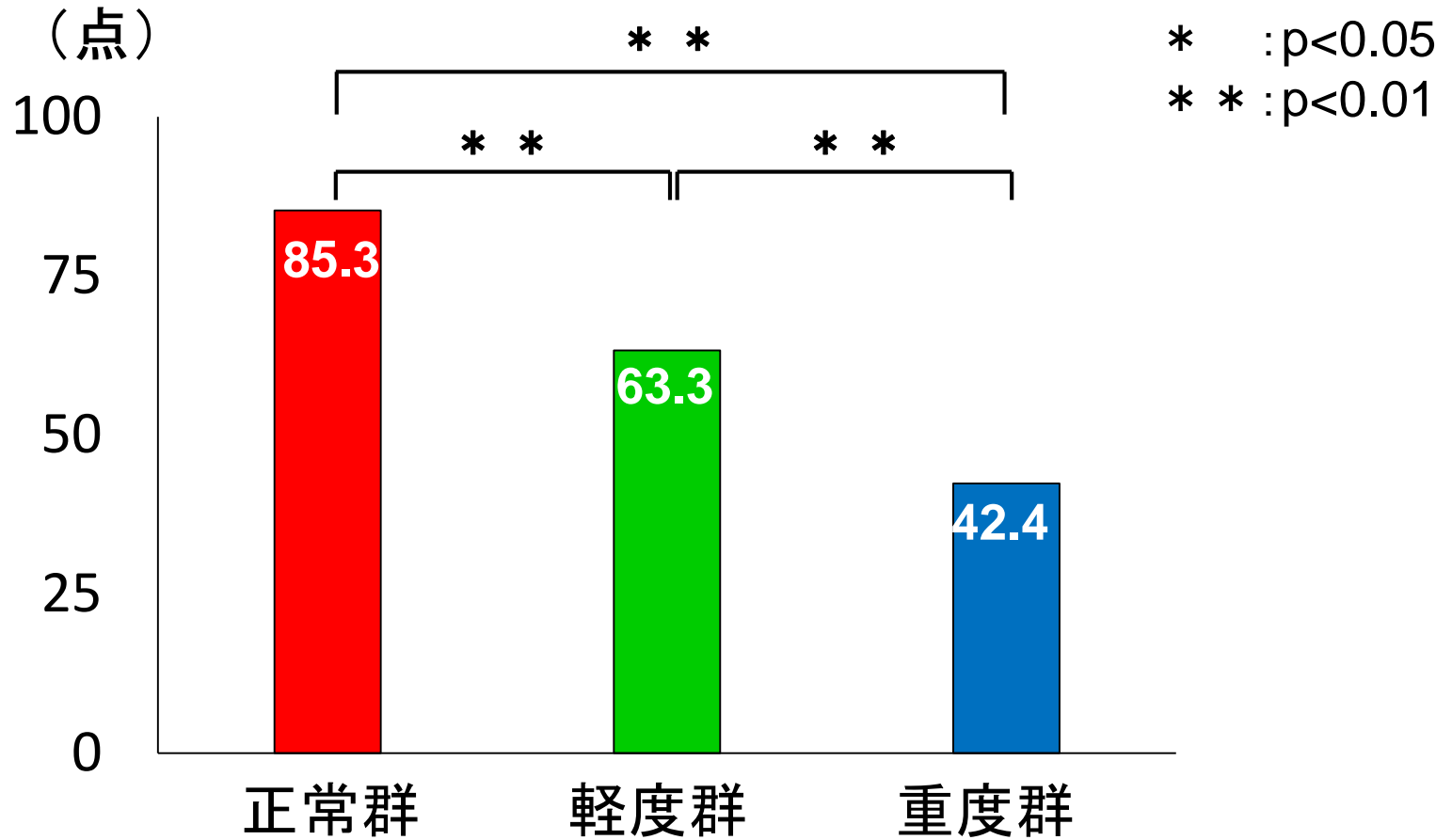
-回復期退院時 Timed up and Go test-



一元配置分散分析
事後検定 (Bonferroni法)

結果

-回復期退院時 Barthel Index-



認知機能低下に伴いBIも低値

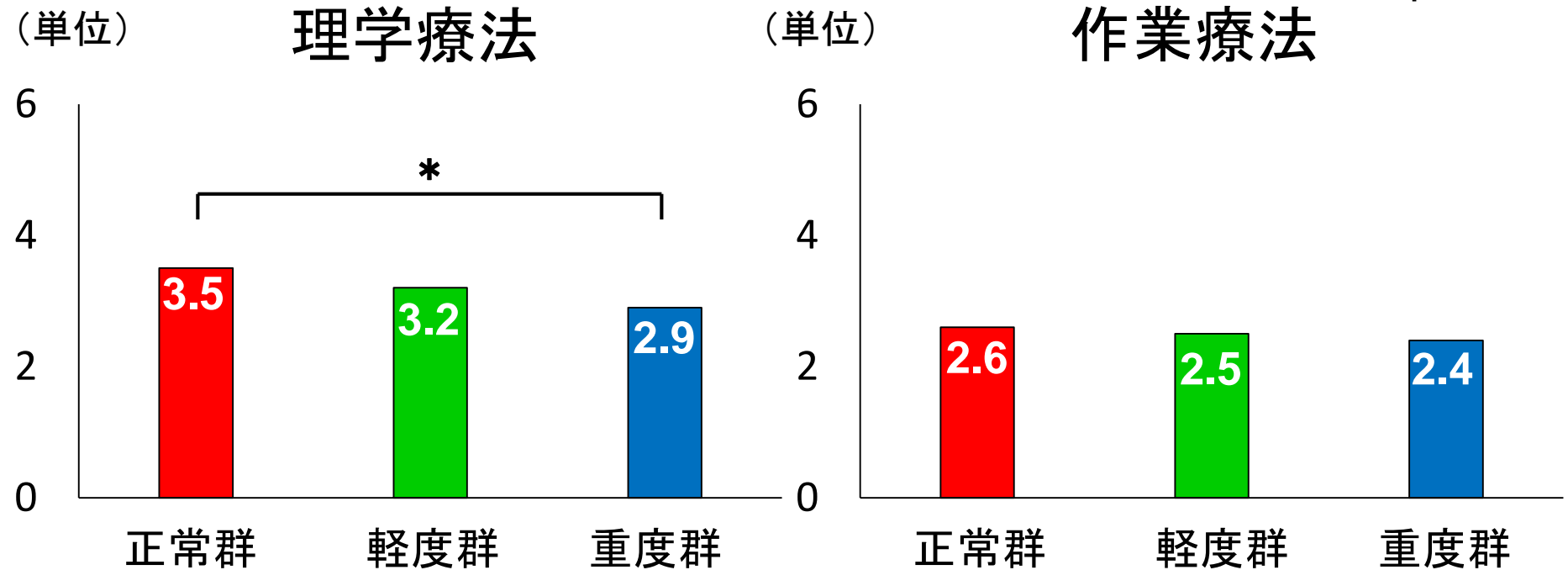
一元配置分散分析
事後検定 (Bonferroni法)

結果

-回復期 リハビリ実施平均単位数-

* : p<0.05

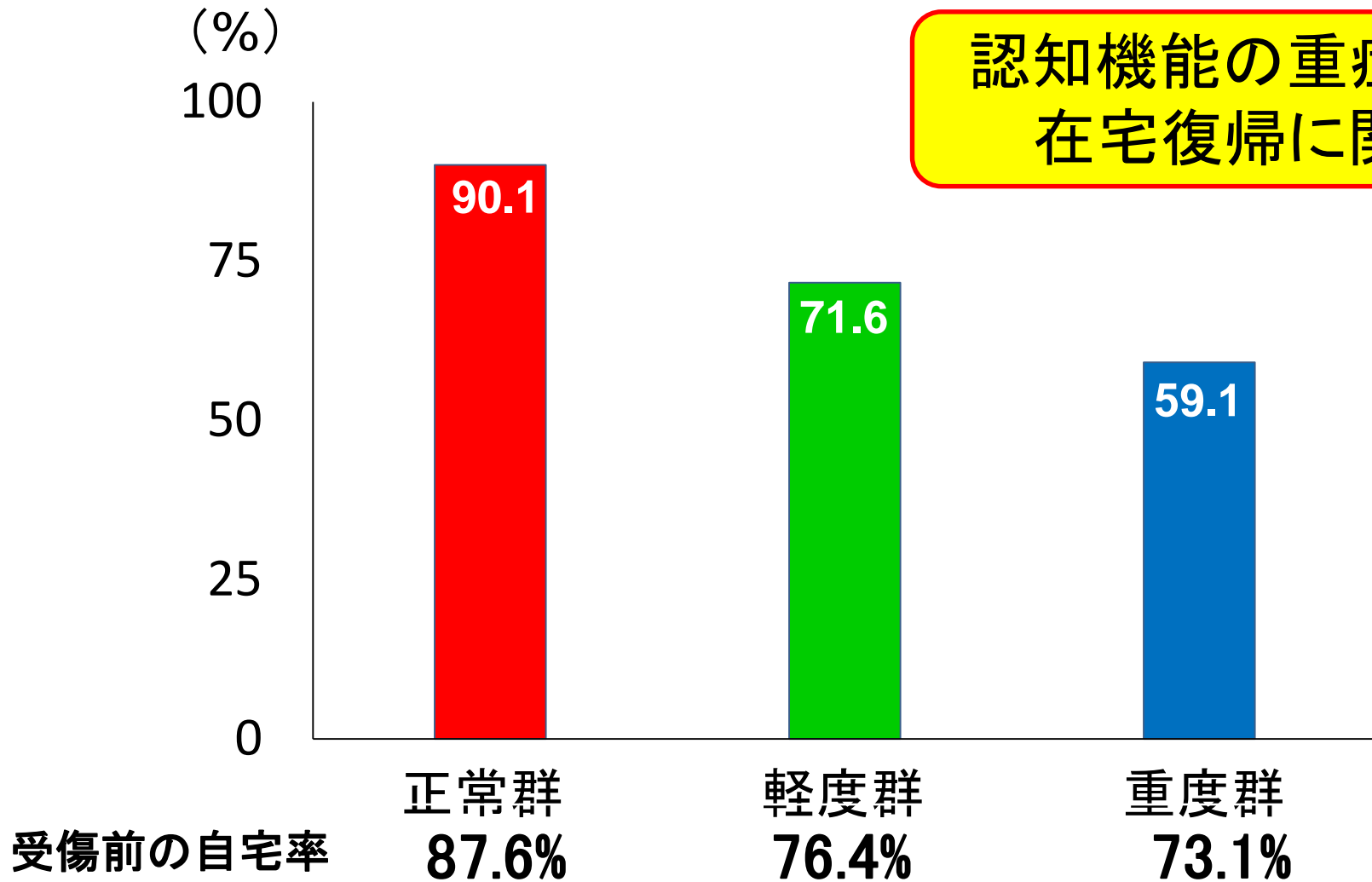
** : p<0.01



一元配置分散分析
事後検定 (Bonferroni法)

結果

-転帰 自宅復帰率-



認知機能の重症度は
在宅復帰に関与

結果のまとめ

今回地域連携パスのデータをもとに、認知機能低下の重症度による転機を検討した

認知機能低下の重症度は、各病期の退院時BI、回復期病院の在院日数、自宅復帰率に影響した

今後は認知機能低下の重症度によるリハビリの効果の検討が重要になる